

研修全体として、次の意思決定支援の推進の考え方を盛り込む

- ・障がい者が希望する生活を実現するためにサービスの質の向上を図るとともに、障がい者本人の意思を尊重し、選択の機会を確保するためには意思決定支援が必要であることを理解する。
- ・サービス担当者会議及び個別支援会議について、本人の心身の状況等によりやむを得ない場合を除き障害者本人の参加を原則とし、会議において本人の意向等を確認することが定められたことを踏まえ、意思決定支援の視点や手法について理解する。

### 【講義日程】

時 間	内 容
60分	【講義1】障がい児支援の基礎
120分	【講義2】障がい児支援の実際と支援のポイント

### 【演習日程】

#### 前期

時 間	内 容
13:00～14:30	【講義・演習1】子どもと保護者を受け止める
14:40～16:10	【講義・演習2】支援計画の作成・説明と同意
16:20～18:20	【講義・演習3】相談から支援現場への連携と支援現場における インテーク

#### 後期

時 間	内 容
13:00～14:30	【講義・演習4】支援現場におけるアセスメントとプランニング
14:40～16:10	【講義・演習5】モニタリング演習
16:20～18:20	【講義・演習6】事例検討による自己点検

※上記の詳細及び時間割は、変更となる場合があります。

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	【講義日程 講義1】 障がい児支援の基礎
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	児童期における支援提供の基本姿勢（講義） 児童期における支援提供のポイント（講義） 児童期における相談支援の目指す方向性（講義）
	3 関連する研修目標	①本人主体の支援方法を理解すること
○	4 担当講師名	佐々木 浩治
○	5 担当講師略歴	別紙 掲載
○	6 時間数	60分
○	7 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童期における支援提供の基本姿勢及び障がい児支援の現状について理解する。</li> <li>・児童期における支援提供の特徴について理解する。</li> <li>・児童期における相談支援専門員と児童発達支援管理責任者の関係について理解する。</li> </ul>
○	8 教科の概要	<p>障がい児の支援に関する制度的な理解とともに児童特有の視点（発達理解の基づいた見立てと支援、保護者支援の視点、多職種による連携の視点）の理解とそのポイントの概略を理解する</p> <p>その中でも「発達（子どもの育ち）」を根拠をもって見立てたうえで、一人ひとりの子どもの育ちに応じた支援を検討し、提供するための支援体制や姿勢の基礎を理解する</p>
○	9 授業方法	講義及び理解度テスト（eラーニング）
○	10 授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい児支援の制度理解も含めた障がい児支援の全体像と支援のポイント（30分）</li> <li>・子どもの育ちに基づいた見立てと支援の基礎（30分）</li> </ul>
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	【講義日程 講義2】 障がい児支援の実際と支援のポイント
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	児童期における支援提供の基本姿勢（講義） 児童期における支援提供のポイント（講義） 児童期における相談支援の目指す方向性（講義）
	3 関連する研修目標	③支援提供職員及び関係機関と連携した支援方法を理解すること
○	4 担当講師名	佐々木 浩治、日置 真世
○	5 担当講師略歴	別紙 掲載
○	6 時間数	120分
○	7 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童期における支援提供の基本姿勢及び障がい児支援の現状について理解する。</li> <li>・児童期における支援提供の特徴について理解する。</li> <li>・児童期における相談支援専門員と児童発達支援管理責任者の関係について理解する。</li> </ul>
○	8 教科の概要	障がい児相談支援、児童発達支援、放課後等デイサービスの各現場の実践者からの実践報告をもとに、障がい児支援の基本姿勢、ポイント、目指す方向性への理解を深め、それぞれの現場の個別性ととも、障がい児支援の普遍性について再確認する
○	9 授業方法	講義（eラーニング）
○	10 授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい児相談の実践から基本姿勢、ポイント、目指す方向性を理解する（30分）</li> <li>・児童発達支援、機関支援の実践から基本姿勢、ポイント、目指す方向性を理解する（30分）</li> <li>・放課後等デイサービスの実践から基本姿勢、ポイント、目指す方向性を理解する（30分）</li> <li>・基本姿勢、ポイント、目指す方向性のまとめ（30分）</li> </ul>
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	【演習日程前期 講義・演習1】 子どもと保護者を受け止める
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	児童期における発達支援（講義・演習） 児童期における相談支援の初期的な対応（演習）
	3 関連する研修目標	①本人主体の支援方法を理解すること
○	4 担当講師名	日置 真世
○	5 担当講師略歴	別紙 掲載
○	6 時間数	90分
○	7 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達支援の重要性について理解する</li> <li>・相談支援専門員と児童発達支援管理責任者の連携、障害児支援利用計画と個別支援計画の関係性について理解する。</li> </ul>
○	8 教科の概要	幼児期、学齢期の2つの事例を共通事例として、事例概要は全体で共有した後、受講者が二手に分かれて、それぞれの事例をもとに事例提供者への質問を通じてインテーク、アセスメントを深め、全体で進捗の共有を行う。
○	9 授業方法	講義と演習
○	10 授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ自己紹介、インテーク情報の共有（15分）</li> <li>・事例理解（15分）</li> <li>・アセスメント演習（45分）</li> <li>・全体共有（15分）</li> </ul>
○	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	【演習日程前期 講義・演習2】 支援計画の作成・説明と同意
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	児童期における支援提供の基本姿勢（講義） 児童期における発達支援（講義・演習） 児童期における相談支援の初期的な対応（演習）
	3 関連する研修目標	①本人主体の支援方法を理解すること
○	4 担当講師名	日置 真世
○	5 担当講師略歴	別紙 掲載
○	6 時間数	90分
○	7 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童期における支援提供の基本姿勢及び障がい児支援の現状について理解する。</li> <li>・発達支援の重要性について理解する</li> <li>・相談支援専門員と児童発達支援管理責任者の連携、障害児支援利用計画と個別支援計画の関係性について理解する。</li> </ul>
○	8 教科の概要	児童期の初期対応のポイントを事例に基づいて改めて解説を行った後、障害児支援利用計画（サービス等利用計画）の作成プロセスを実践的に学び、保護者理解と支援の理解のために計画の説明と同意場面を共有することで、理解を深める
○	9 授業方法	講義と演習
○	10 授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体解説（20分）</li> <li>・支援計画作成演習（45分）</li> <li>・説明と同意のデモと解説（25分）</li> </ul>
○	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	【演習日程前期 講義・演習3】 相談から支援現場への連携と支援現場における インテーク
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	児童期における支援提供の基本姿勢（講義） 児童期における発達支援（講義・演習） 児童期における相談支援の目指す方向性（講義） 児童期における支援提供プロセスの管理に関する演習 （演習）
	3 関連する研修目標	③支援提供職員及び関係機関と連携した支援方法を理解すること
○	4 担当講師名	日置 真世
○	5 担当講師略歴	別紙 掲載
○	6 時間数	120分
○	7 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童期における支援提供の基本姿勢及び障がい児支援の現状について理解する。</li> <li>・発達支援の重要性について理解する。</li> <li>・児童期における相談支援専門員と児童発達支援管理責任者の関係について理解する。</li> <li>・児童期における個別支援計画の策定や中間評価と計画の修正等による支援提供のプロセス管理、支援提供に係るマネジメントについて理解する。</li> </ul>
○	8 教科の概要	<p>事例を用いてサービス担当者会議のロールプレイを通じて、相談支援と支援提供事業所、その他の支援機関が子どもと保護者を理解し、ニーズや配慮点を理解したうえで、連携しながら、支援をスタートさせるイメージを持つ</p> <p>そのうえで、各支援現場における事例理解や支援の方向性についてのすり合わせなど、スムーズに支援がスタートするための配慮やポイントなどを理解する</p>
○	9 授業方法	講義と演習
○	10 授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援提供のポイント解説（20分）</li> <li>・サービス担当者会議演習（60分）</li> <li>・インテーク演習（40分）</li> </ul>
○	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	【演習日程後期 講義・演習4】 支援現場におけるアセスメントとプランニング
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	児童期における発達支援（講義・演習） 児童期における支援提供プロセスの管理に関する演習（演習）
	3 関連する研修目標	②事業所におけるサービス提供のプロセスとそこで果たすべきサービス管理責任者等の役割を理解すること
○	4 担当講師名	日置 真世
○	5 担当講師略歴	別紙 掲載
○	6 時間数	90分
○	7 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達支援の重要性について理解する。</li> <li>・児童期における個別支援計画の策定や中間評価と計画の修正等による支援提供のプロセス管理、支援提供に係るマネジメントについて理解する。</li> </ul>
○	8 教科の概要	事例を用いて、グループでニーズアセスメントの理解を深められるよう個別支援計画の土台シートを活用した演習を行う 作成した土台シートを共有することで、支援提供プロセスの理解と支援のポイントの理解を深める
○	9 授業方法	講義と演習
○	10 授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント～プランニング演習（60分）</li> <li>・全体共有と解説（30分）</li> </ul>
○	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	【演習日程後期 講義・演習5】 モニタリング演習
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	児童期における発達支援（講義・演習） 児童期における支援提供プロセスの管理に関する演習（演習）
	3 関連する研修目標	②事業所におけるサービス提供のプロセスとそこで果たすべきサービス管理責任者等の役割を理解すること
○	4 担当講師名	日置 真世
○	5 担当講師略歴	別紙 掲載
○	6 時間数	90分
○	7 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達支援の重要性について理解する。</li> <li>・児童期における個別支援計画の策定や中間評価と計画の修正等による支援提供のプロセス管理、支援提供に係るマネジメントについて理解する。</li> </ul>
○	8 教科の概要	事例を用いて、支援提供後の様子についてイメージし、自分たちのアセスメントや支援方針の妥当性について評価し、次の計画作成に活用する流れを理解し、連携や協働で計画の精度を上げていくプロセスを体感する。 事例提供者からリアル事例に関する支援経験について解説してもらい、学びを深める
○	9 授業方法	
○	10 授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリング情報をもとにグループで振り返り（45分）</li> <li>・事例のまとめ（45分）</li> </ul>
○	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	【演習日程後期 講義・演習6】 事例検討による自己点検
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	児童期における支援提供のポイント（講義） 支援内容のチェックとマネジメントの実際（講義）
	3 関連する研修目標	③支援提供職員及び関係機関と連携した支援方法を理解するこ
○	4 担当講師名	日置 真世
○	5 担当講師略歴	別紙 掲載
○	6 時間数	120分
○	7 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童期における支援提供の特徴について理解する。</li> <li>・相談支援専門員及び児童発達支援管理責任者としての役割について、児童期における支援提供のプロセスに沿って研修の振り返りを行い、研修終了後の実践に向けた気づきを持つことができる。</li> </ul>
○	8 教科の概要	相談支援専門員、サビ管、児発管など多職種で相互に児童事例を持ち寄り、検討することで児童支援のポイントやそれぞれの役割を再確認し、課題や学びを現場に持ち帰る
○	9 授業方法	講義と事例検討
○	10 授業計画	・グループで事例報告（120分）
○	11 準備学習	受講者が事前に自らの支援事例について所定の書式にまとめて提出する
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	